

## 活用事例・活用の効果等について

課題	取組内容	No	活用事例・活用の効果等
学力の向上	学力調査結果の配信	小① 中①	全国・県学力調査の結果と自校の結果を比較し、自校の課題に対する今後の取組や研究の方向性を明確にすることができた。また、児童生徒個々の結果は、一人一人のつまずきの早期解決に役立てるとともに、三者懇談等の資料として説明し、学校と家庭が連携した取組に繋げた。
	課題集やテストの配信	小② 中②	朝学習や放課後等の補充学習、単元末の振り返り等で活用し、児童の課題克服や学習定着に活用した。  各教科の単元ごとに活用し、児童の定着状況を確認しながら補充学習へとつなげていった。問題はすべて印刷し、いつでもすぐ使用できるようにファイリングした。自作の課題プリントやテストを作成する時間が大幅に軽減された。
	各種スタンダード（手引き）の配信	小③ 中③	「岡山型学習指導のスタンダード」を常に手に持ち、日々の授業の振り返りや校内研修での授業づくり、研究授業の反省等を行った。協議のテーマを授業ファイブを基に設定したことで、話し合いの焦点化が図られた。  「家庭学習のスタンダード」を基に、親子で家庭学習について話し合う懇談会を開催した。勉強をする場所や始める時間等、家庭学習の約束を親子で話し合うことにより、児童の学習への意欲が向上するのが感じられた。
	学力向上実践校や素材集の配信	小④ 中④	学習の手引きを参考にして、自校独自の学習の手引きを作成して活用した。
	学びのチャレンジコンテンツ	小⑤	各校の取組状況をホームページにより県内で情報共有できるようにしたことにより、他校の頑張りに刺激されて意欲的に取り組む学年が増えた。また、学びの定期便を教務担当が一覧にして、拡大掲示して活用した。  時事問題について興味を持つ児童が増え、意欲づけにつながった。各学級で継続して取り組むことにより、様々なジャンルの課題に興味を持つようになり、考える力がついてきた。
生徒指導	スクールソーシャルワーカーの派遣	小⑥ 中⑤ 高①	引きこもり傾向の強い生徒と深く関わっていただいた。進路決定に向けて本人だけでなく、保護者の相談にも積極的に関わり、学校と家庭の連絡調整に重点を置いた支援を受けた。また、小学校から継続して同じスクールソーシャルワーカーに関わっていただき、単年度で終わらない継続的な関わりを持っていただけたことが大変心強かった。学校と家庭の思いを相互に伝えながら家庭支援に指導・助言をいただけたことにより、最終的には卒業後の進路決定につながった。  保護者との接触が難しく、本人も大人への不信感の強い生徒について、家庭への定期的な訪問、校内における見守り、カウンセリングなどを通じて特に本人との関係づくりに尽力いただいた。その結果、気持ちや今後の方向について前向きな姿勢が生徒に見られるようになった。学校との連絡も頻繁に取っていただき、担任等の負担軽減に結びついた。  学習面や発達面で課題を持つ生徒に対して月1回のケース会議を管理職、担任、支援員、スクールソーシャルワーカー、福祉関係部局の担当者を持ち、情報交換と家庭訪問などの分担や今後の計画等を調整した。それぞれの情報を多面的につなぎ合わせて検討することができた。そのことが保護者とのつながりを確立させ、担当教員が一人で課題を抱え込むことがなくなった。家庭環境の様子、今後の方針や進路についての提案が各立場から得られたので助かった。
	学級サポートリーダーの派遣	小⑦ 中⑥	定期的に学校の実態を見ていただくと同時に、取組の概要を伝え、教育分野や福祉分野のそれぞれの立場から指導・助言をいただいた。また、リーダーから言葉をかけていただくことにより、教職員のモチベーションが向上した。
	集中指導員（教員OB・警察OB）の派遣	小⑧ 中⑦ 高② 特①	警察関係機関への依頼や連携の図り方についてのアドバイスをいただき、実務上、大変助かった。軽微な事案でも関係機関に相談できるネットワークを持つことができた。

※ Noは取組一覧の番号に対応しています。

課題	取組内容	No	活用事例・活用の効果等
特別支援教育	専門指導員の派遣	小⑫ 中⑪ 高⑥	特別支援学級に在籍する生徒について、ケース会議に参加していただいたり、面談や指導法について指導・助言を受けた。それにより、課題が明確になり、支援体制が確実に前進して次年度へとつなげることが期待でき、保護者や担当教員が今後の見通しを持つことができた。  通常学級における特別支援を要する児童について指導・助言をいただき、授業や教室環境の改善につなげることができた。指導・助言内容は校内研修で情報共有し、学校全体の特別支援教育の理解を進めることができた。
	通常学級の特別支援教育ガイドの配信	小⑭ 中⑬	ガイドを利用して校内研修を行い、通常学級における特別支援教育の理解の向上を図ることができた。
	個別の教育支援計画等の提示	小⑮ 中⑭ 高⑧	自校の状況に合った様式に修正して活用した。何年も継続して記入・活用できる様式なので、児童が進級したときに次の担任への引継ぎが容易にできた。
健康・体育等の指導	体力向上の取組への支援	小⑰ 中⑯ 高⑩ 特⑦	新体力テストの分析結果を受けて、体力向上の取組事例を参考に、体力アッププログラムを学校行事や授業において活用した。写真入りでわかりやすく解説があり、教員の指導力向上につながった。
	運動部活動指導資料の配布	中⑰ 高⑪ 特⑧	新チーム結成時に運動部長会を開催し、熱中症や心肺蘇生などに関連した項目とともに今後の活動で注意すべき点などを資料として配付して活用した。また、内容の一部を週案の裏面で紹介し、事故防止策等を具体的に説明することにより、教職員の理解が深まった。
指導主事の派遣・相談	指導主事の派遣・相談	小⑲ 中⑮ 高⑨ 特⑥	学校力向上サポートキャラバンを活用し、情報モラル教育、授業づくり、発達障害などに関する校内研修を開催した。特に、公開授業についての指導・助言や効果的な指導法の実習は、すぐに授業に生かすことができ、教職員の指導力向上につながった。
教職員の能力向上等	スクールヘルスリーダーの派遣	小⑳ 中⑱ 高⑬ 特⑩	経験が浅い養護助教諭に具体的な指導をいただき、自信がなかった養護助教諭も一人で対応できるようになった。養護教諭の仕事は一人職のため、専門知識のあるスクールヘルスリーダーの指導がいただけたことは心強かった。
	VODコンテンツや研修資料等の配信	小㉑ 中㉑ 高⑭ 特⑪	研修に持参する資料の印刷や校務に必要な研修をe-ラーニングで行い、各教職員が空いている時間を有効に活用して効率的に研修を行うことができた。  教職員の不祥事防止研修資料を校内研修で活用した。目的とする資料をすぐに見つけることができ、研修資料を活用したことにより研修内容の焦点化を図れたことが教職員の自覚の高揚につながった。
保護者等からの苦情等への対応	弁護士による法律相談	小㉔ 中㉓ 高⑰ 特⑭	以前から継続していた生徒に係る交通事故による損害賠償の訴えについて相談し、法的な裏付けによる対応ができ、これまで対応していた教職員の負担が軽減された。  保護者からの過剰な要求に対して弁護士から法律に基づいた助言を得ることができ、法律的な後ろ盾を持って保護者対応ができたことが問題解決につながった。教職員は法律に詳しくないため、保護者対応の根拠となる見解をいただくことができて助かった。
地域の力の活用	おかやま子ども応援事業	小㉕ 中㉕ 高⑯ 特⑮	地域の方に放課後学習の支援をしていただき、児童個々の課題やニーズに応じたきめ細かい指導を行うことができた。また、子どもたち自身も地域の方と関わることで多様な経験をすることができた。地域コーディネーターが教職員の要望に早急に応じて支援活動を展開したので、教職員の負担が軽減された。
心身の健康	過重労働による健康障害防止のための健康相談	中㉙ 高⑳ 特⑱	時間外労働の時間が多い教職員について、福利課保健師による健康相談を依頼した。管理職としては、当該教職員のストレスなど健康の状況を把握して健康障害防止に努めることができた。
	メンタルヘルス支援員の派遣相談	小㉙ 中㉘ 高㉑ 特⑱	所属にメンタル不調とみられる職員がいたので、本人とも相談の上、メンタルヘルス支援員の派遣相談を依頼した。本人の話をじっくり聴くことでストレスを軽減するとともに、今必要な配慮等について、管理職とともに話し合い、重症化する前に本人への支援を行うことができた。

※ Noは取組一覧の番号に対応しています。